

2024年
9月1日
第1号

ひょうご NIE 通信

—2025 神戸大会へ—

発行 神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7
☎078-362-7003 メール hyogo-nie@kobe-np.co.jp



時代を読み解き いのちを守る

神戸大会スローガン決定

来年7月31日、8月1日開催

NIE(読み方は、エヌ・アイ・イー)は「Newspaper in Education(教育に新聞を)」の略。なじみのない先生もいらっやと思う。学校で新聞を活用しながら多様な学びを深めてもらう取り組みだ。

来年7月31日、8月1日、神戸市で「第30回NIE全国大会神戸大会」が開かれる。全国の児童生徒にどこまで役立つ大会にできるか。開催まで1年を切った。

この「ひょうごNIE通信」は今後約1年間、大会の準備状況を紹介します。先生方から意見をいただきながら、よりよい大会を目指したいとの思いをこめて発行する。

大会の概要を紹介したい。日本新聞協会が主催し、神戸新聞社と兵庫県NIE推進協議会が主管する。来年7月31日は神戸ポートピアホテル(神戸市中央区)、8月1日は甲南大学岡本キャンパス(同市東灘区)が会場となる。



伊川谷高校の公開授業。やさしい言葉でまとめ直した記事を紹介し合う生徒たち =2023年10月

来年は阪神・淡路大震災30年、戦後80年の節目。国内外では地震などの自然災害、コロナ禍、紛争が相次ぐ。地球温暖化も急速に進む。将来が見通せない時代、児童生徒が正しい情報を得て生きる力を育むため新聞にできることは何か。大会のスローガンは「時代を読み解き、いのちを守るNIE」とした。

初日は芥川賞作家の小川洋子さん(西宮市)の記念講演やパネル討議など、2日目は兵庫でNIE活動に取り組む学校が公開授業や実践発表を行う。

その一つ、県立伊川谷高校(神戸市西区)は、新聞記事を「やさしい日本語」に書き換える活動を発表する予定。「やさしい」は、日本語を母語としない外国人などにも分かるよう、語彙(ごい)や文法を簡単にした日本語のことだ。災害時、日本語が不得手な外国人が困らないような手立てはあるか。喫緊の課題だ。県内では外国籍の生徒が多い夜間中学でもNIEの取り組みが進んでいる。

兵庫では先生たちによる研究会が今年8月発足し、9月17日、伊川谷高校で講演会がある=兵庫県NIE推進協議会ホームページ参照。関心のある方は、ぜひご参加を。

次回も実践発表校を紹介する。
(NIE・NIB 推進部シニアアドバイザー
兵庫県NIE推進協議会事務局長
三好正文)



NIE京都大会で行われた公開授業の一つII京都市内

京都で全国大会

県内から80人参加

8月1、2日に京都市内で開かれた「NIE全国大会京都大会」(日本新聞協会主催)を視察した。大会には、全国から教員や報道関係者ら約1200人が参加。このうち約80人が兵庫県内の教員らで、来年夏の神戸大会を控え、関心の高さがうかがえた。

京都大会のスローガンは「探求と対話を深める NIE デジタル・多様性社会の学びに生かす」。初日は歴史家で国際日本文化研究センターの磯田道史教授の基調講演や、パネル討議などがあった。2日目は15の分科会があり、公開授業や実践発表などが行われた。

京都先端科学大学附属中学校の公開授業「多様性を問う 新聞記事のジェンダー表現」では、「国際女性デー」(3月8日)をどう報道したかについて、生徒が全国紙や地方紙、海外の新聞を比較するなどした。公開授業は計5つあり、教員らは学びを深めた。

初のポスターセッションは、約50団体が出展し、参加者らと活発に意見を交わした。

(神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局
網 麻子)

なおみ先生の NIE教室



チャイムが鳴ると、教室のモニターに映された新聞記事を指しながら、1人の生徒が解説を始めました。それを聞き、何やらタブレットに打ち込む生徒たち。

班での話し合いでは、本題からずれた意見を言ったり、言葉に詰まったりする生徒がいても、辛抱強く真剣に互いの意見を聞きます。先生は要所要所でポイントを指示するだけで、生徒たちが授業を進めていきます。

うらやましいぞ。どうやってこんな教室の空気ができるのだ? 長年、高校の国語教

① 新聞に親しむ

師をしていた私は西宮市立浜脇中学校の授業を見ながら考えました。

教師は、クラスの雰囲気づくりのため、仕掛けを試みます。朝の読書を取り入れると落ち着いた空気になり、合唱を組み込むと和気あいあいとした空気になるというふうには。その仕掛けとして、浜脇は学校を挙げ、教育に新聞を活用するNIE(エヌ・アイ・イー=Newspaper in Education)活動を行っています。

民主的で主体的な空気が生まれたのは、第一に先生の努力ですが、新聞に親しんだ生徒たちが、他の人や社会、自然環境のことを、自分ごととして考えるようになったという要

因もあるでしょう。新聞は理想的な教室の空気を創る力を持っていると思います。

(NIE・NIB推進部顧問 吉田尚美)

来年7月31日、8月1日、神戸でNIE全国大会が開催されます。このコラムでは、新聞を活用して学びを深める方法を伝えていきます。◇第4金曜に掲載します。

よした・なおみ 兵庫県稲美町出身。県内の公立高校国語教師、県教育委員会指導主事、播磨南高校校長、三木北高校校長などを経て現職。

教室の主体的な空気育む

2024年8月23日付神戸新聞朝刊教育面に掲載されました